

# 娯楽映画のなかの 排除と包摂から見えてくるもの

2014/3/8 (sat)

14:00 ~ 17:00

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス 社会学部棟3F  
(西宮市上ヶ原 1 番町 1-155)

先端社会研究所セミナールーム

プレゼンター

李 建志  関西学院大学 社会学部教授

「昭和のメディアミックス —『兵隊やくざ』を中心に—」

パネリスト

上水流 久彦  県立広島大学 地域連携センター講師

上村 崇  福山平成大学 福祉健康学部准教授

事前予約不要

報告主旨：

敗戦後、いわゆる独立プロによって『真空地帯』という映画が撮られている。これは、野間宏の小説を映画化したもので、軍隊を、世俗の社会の常識が通用しない「真空地帯」として描いているのだが、これに対し大西巨人は、軍隊のなかにも部落差別もあり障がい者差別もあるという事実を重視して野間を批判、その議論の結実として大作『神聖喜劇』を発表したことが知られている。

その論争について深く論じるつもりはないが、昭和30年代の娯楽映画ブームに乗ってつくられた映画「兵隊やくざ」シリーズとその原作である有馬頼義の『貴三郎一代』を、この野間、大西によってひらかれた戦争文学（あるいは戦争映画）の影響下にあるととらえ、そのドラマのなかにある歌（浪花節、軍歌など）や、慰安所などの風俗、そしてインチキ中国語などに対する分析を通じて、議論したいと考えている。また、『続貴三郎一代』では、朝鮮人慰安婦が登場するにもかかわらず、映画ではそれを隠蔽しているという事実から、娯楽映画という「非政治」的映画のもつ政治性（非政治的政治性）に対する分析を行うことをめざしている。この分析からは、日本社会の無意識下の「排除」と「包摂」のプロセスが看取されるだろう。